日刊 動労千葉

83. 12. 23

No. 1525

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

1983年をふりかえって印象に残るできごとは

いま支部の書記長に聞く

『日刊動労千葉』編集委員会は、一九八三年の闘いを最先頭で担いぬいた十一支部の書記長のみなさんに、次の三つの質問をしてみました。

一九八三年を振り返って、次の質問にお答え下さい。

1. 世界の出来事のうち、最も印象に残ることは何ですか。そのことについてどう思いますか。
2. 国内の政治情勢で最も印象に残る出来事は何ですか。そのことについてどう思いますか。
3. 国鉄内の問題で最も印象に残ることは何ですか。そのことについてどう思いますか。

新小岩支部　書記長　若林　寛

答①

アメリカのグレナダ侵攻。この事件が正しいというならば、日本がかつて中国大陸への十五年間に亘る侵略戦争に正しいという解答を与えることになりはしないだろうか。

支配階級は、これに力を得てより一層の軍大化路線右翼的な方向へ進むのではないだろうかと危惧の念を抱くものである。

そういった意味に於いて、11・9集会に取り組んだことに対し正しい総括ができるのではないだろうか。

答②

ロッキード田中判決。一国民であり、一国鉄職員である「上野三〇〇円」には一審・二審もなく問答無用で免職、片や総理大臣で扱い高は五億円でありながら、現在も日本の政治を牛耳っているといわれている。これはどう見ても おかしいのではないか。最高権力者総理大臣であることにこの事件の意義？があり、判決があるのではないか。議員辞職勧告に対し「八百屋で魚を買うようなものだ」という人もいるが、かつて東京警視総監を務めていた時にそういう気持ちで務めていたのかと思うと、当時の部下は何と感じるのだろうか？

基本原則をどこかへ置いてきている者が多い昨今、我が組合は基本原則を守ってやっていってもらいたい。

答③

臨調行革による国鉄攻撃に対し、動労「本部」が水先案内人としてなりきって動いていることである。

乗入れ先の各労組の掲示を拝見させてもらっているが、その反動ぶりには感心させられる。昇給協定をめぐる国労の公労委提訴に対する回答に負けていい気持ちという調子では、労組とは一体何なのであるかという印象をもつものである。

千葉転支部　書記長　内山　等

答①

戦火の中近東

レーガンは、資本主義体制の危機に直面し、中近東はじめ世界各地で「力の政策」をもって戦争放火を行ってきた。このレーガンは、中曽根との日米首脳会談の中で日本に「アジアの防衛」を肩がわりさせようとし、中曽根は、「ソ連脅威論」をふりまき、レーガンの戦争政策＝侵略に加担しようとしている。来年早々、直ぐにでも反動中曽根内閣を打倒しなくてはならない。

答②

戦争屋「レーガン来日」

「戦後政治の総決算」を掲げた中曽根は、レーガン来日を機に「西側の一員」「力による平和」「ソ連との対決」を前面に押し出し、一層軍事大国へ突き進もうとしている。

「戦争屋」レーガン来日を阻止するたたかいを社共、総評は放棄してしまったところに今日の労働運動の危機を見るが、このような情勢の中で、動労千葉二百七十名が決起した「11・9レーガン来日阻止闘争」は、偉大なたたかいであったと思う。

答③

動労「本部」革マルの「第二鉄労化」

「御用組合」「当局の手先」＝鉄労にかわって動労「本部」が第二鉄労として登場「働こう運動」を路線化し、ブルトレ、現協、入浴、昇給協定などすべてをことごとく裏切り、当局の番犬として「動労だけエサにありつこう」「動労だけ生き残ろう」としている。「生活と職場を守る」と組合員をたぶらかし、それだけではなく、当局の攻撃に起ちむかう闘う国鉄労働者の背後から襲いかかろうとしているのが彼等だ。何んと卑劣な連中であろうか。

写真でみる動労千葉の闘い

4月

中江選挙闘争は、船橋市に「反核・護憲」の中江旋風を巻きおこし、堂々4位当選の大勝利をかちとった